

## 「松下アジアスカラシップ」詳細

助成番号	研究テーマ(留学目的)		
	留学国	留学機関	留学期間
	氏名	所属	区分
98-004	民国期中国の学校教育および民間団体における伝統音楽の様相についての調査研究		
	中国	中央音楽院	1999.9 ~
	橋田 勲	大阪大学大学院	院生博士

### 研究テーマ(留学目的)の説明 (助成決定時のテーマ。文責は本人)

私は現在、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程に在籍し、中国近代の音楽について社会史および文化史の観点から研究しております。上記のテーマは、博士論文作成の際の一つの柱として想定しているものです。

中国の古典文化において、音楽は現在でいう「芸術」として認識される美的活動の一環に位置していました。その実践形態は、伝統的知識人である文人と称される人々による琴や琵琶の独奏、劇音楽「崑曲」の演唱など個人的愛好が主体であり、演奏理論の確立や楽譜集の編纂といった音楽の伝承における主要な側面も、好事家というべき文人が中心となって営まれてきました。しかし中国社会が大きな転換期を迎えた19世紀後半以降、文人層の解体とともに彼らによって担われてきた伝統音楽もそのありかたに変化が見られるようになります。20世紀初めに1911年の辛亥革命以降の中華民国期には、中学校や大学で伝統音楽が教授されるようになり、民間においても音楽活動を行う団体が数多く結成されました。これら学校や民間団体による音楽活動には、一般に対する啓蒙的な働きかけや学術的研究の試み、楽器の改良や新たな合奏形態の模索など、従来の文人個人による趣味的行動の範囲を超えた社会的性格が認められます。本研究では、こうした民国期の学校や民間団体における音楽のありかたとそこに集う人々の意識に着目して、文人の文雅な営みから近代的芸術へと推移する中国伝統音楽の歴史的一局面について、直接現地に身を置いて当時の文献の探索や関係者からの聞き取りを通じて調査研究することを考えています。